



学校だより 令和4年3月1日 No. 295

柏崎市立柏崎小学校

柏崎市学校町 1 番 88 号

TEL0257-22-2196 FAX0257-24-0304

HP<http://kedu.kenet.ed.jp/hakushou/>

E-mail hakushou@kenet.ed.jp



平野歩夢さんの逆転「金」の瞬間、思わずガッツポーズをした人が多かったでしょう。柏小の6年生が修学旅行で村上スケートパークを訪れ、平野さんのお兄さんにコーチしていただいたこともあって、何か二重の喜びを感じました。大けがから復活して夏冬五輪に二刀流で挑戦し、ついに小さいころの夢をかなえた、その笑顔はまぶしい限りでした。

成功体験を積んで、自己肯定感を高められればそれに越したことはありません。でも、いつもうまくいくとは限らない。そんなときどうするかについて、子どもたちに話をしました。

失敗のススメ(2月1日全校朝会講話から)

校長 竹田 充

2月生まれの有名な人を紹介します。その人は、トーマス・エジソン。発明王と言われ、その発明の数は生涯で1300。そのうちの一つ、電球を発明したときにこんなことを言っています。

「私は失敗したことがない。ただ、1万通りの、うまくいかない方法を見つただけだ。」

これが失敗王とも言われる理由で、数えきれない失敗をしてきた人でもあります。



私はこの前「失敗図鑑」という本を読みました。この本には、世界的に有名な人が実は失敗ばかりだったことが書かれています。

カーネルサンダースは、若い時に失敗を重ねながら40以上の職業を渡り歩き、65歳でフライドチキンをやっと大ヒットさせました。売り込むのに1500回以上断られ続けたらしいです。メジャーリーグ伝説の野球選手ベブルースは、子どものころ、とてもぐれていたそうです。世界的な細菌学者の野口英世にはお金を使いまくる癖があったようです。イギリスで人付き合いに失敗した夏目漱石は、後に日本を代表する小説家になりました。……など、合わせて23人もの「すごい人」がどんなに失敗ばかりだったかが書かれています。この本を読むと、失敗しなければ立派な人になれないようにも思えます。

ところで、最近の脳の研究では、簡単な問題を解いているときよりも、難しい問題に挑戦して間違えたときに、脳神経の新しい回路がつながる反応があるそうです。つまり、つまずきや間違いに気付くことが脳を進化させるというわけです。

そのときに問題なのは、心のもち方、考え方です。人の能力や価値は努力次第でいくらでも変わるし成長すると信じている人ほど、脳の進化が大きいのだそうです。そういうしなやかな心をもつ人は、正解・不正解の結果よりも、どうすれば問題を解けるか、学び方に強く引き付けられるのです。

テレビドラマの中では、「わたし失敗しないので。」という決め台詞があります。もちろん絶対失敗できないとき、それは命がかかっているときとかですが、そういう時に失敗しないためには、つまずきやドジをたくさん重ねて、失敗になれておく。そうすればくよくよしないようになります。そして、どうして失敗したかを考える。どうしても失敗が怖い、チャレンジできないときは逃げてもいいでしょう。でも、そのあとどうするかが大事ですね。(中略)

エジソンの白熱電球は、実はたくさんの発明を組み合わせででき上がったものです。それは、エジソンのもとで化学者や職人など30人余りの人が24時間体制で研究を積み重ね、失敗を繰り返してできたものでした。エジソンは生まれつき天才だったわけではなく、ちょっと機械いじりの好きなどこにもいる少年でした。ただ、機械をいじくり次々に新しいことに挑戦する心をいつまでも失わなかった。人は変えられるし、能力は伸ばせる。そんなしなやかな心をもっていたから成功したんですね。

卒業、進級まで、あと2か月。教室でもたくさん間違えて、失敗を重ねて、そこからどんどん自分を進化させていきましょう。